

尚家文書及び伊江家資料の国の文化財指定について

1 尚家文書について

尚家第 22 代当主尚裕氏（名誉市民、平成 9 年死去）より平成 7 年に尚家文書 1,341 点、平成 8 年に美術工芸品 85 点の寄贈を受けた。

那覇市歴史博物館では、平成 9 年に寄贈お披露目展を開催し、平成 10 年度から平成 14 年度までの 5 年間、文化庁の補助を受けて尚家関係資料総合調査を行い、報告書の形で資料調査の結果や目録を作成している。

- (1) 平成 14 年 6 月 26 日、尚家から寄贈を受けた美術工芸品 85 点が「琉球王尚家伝来品」として、国の重要文化財（工芸品部門）に指定された。
- (2) 平成 18 年 6 月 9 日、琉球王国最後の国王尚泰が亡くなった明治 35 年までとする尚家文書 1,166 点と美術工芸品 85 点が、沖縄県では戦後初の国宝「琉球国王尚家関係資料」（歴史資料部門）となった。

2 尚家文書の国宝追加指定及びその理由（別添資料 1 参照）

尚家第 23 代当主尚衛氏より尚家で新たに見つかった文書 253 点の寄贈を受け（平成 30 年 8 月 9 日感謝状贈呈式）、平成 30 年 12 月には八重山博物館より尚家文書関連資料 3 点の移譲を受けた。

寄贈を受けた 253 点の文書のうち、明治 35 年までの文書 38 点及び文書箱、八重山博物館より移譲を受けた 3 点は、文書の作成、伝来過程が国宝資料と同様なことから、国宝に追加指定（計 41 点）するよう答申された。

尚家文書の国宝指定点数は、これまでの 1,166 点から 1207 点（附文書箱）となる。

3 尚家資料関連年表

- (1) 平成 7 年 尚裕氏、尚家文書 1,341 点を那覇市へ寄贈
- (2) 平成 8 年 尚裕氏、尚家継承美術工芸品 85 点を那覇市へ寄贈
- (3) 平成 14 年 美術工芸品 85 点が国の重要文化財（工芸品部門）に指定
- (4) 平成 18 年 尚家文書 1,166 点と美術工芸品 85 点を合わせ、沖縄県で戦後初の国宝指定（歴史資料部門）
- (5) 平成 30 年 尚家文書 253 点、文書箱 1 点の寄贈及び文書 3 点の移譲
- (6) 平成 31 年 尚家文書 41 点の国宝への追加指定答申

4 伊江家資料について

伊江家資料は、元参議院議員で、沖縄初の国務大臣となった伊江朝雄氏が受け継ぎ、保管してきた伊江家代々の文書資料及び美術工芸品である。

伊江家資料は、家譜及び辞令書など家譜編纂に関わる文書・記録類がまとまっていることが評価され、平成 14 年 10 月に沖縄県文化財に指定(文書資料 122 点、附資料 29 点)された。その後、その他の資料も合わせ平成 20 年 10 月に本市が寄託(約 180 点)を受けている。

歴史博物館では、平成 21 年 1 月にお披露目展示の「伊江御殿伝世品展」を開催し、その後は歴史博物館の常設展示等で、公開するなどの活用を図っている。

5 伊江家資料の重要文化財指定及びその理由(別添資料 2 参照)

本市が寄託を受けた伊江家資料から琉球王国時代に関わるもの、伊江家に当初から伝来していたものを基準とし、文書資料 145 点と書(掛け軸) 1 点の計 146 点が「伊江御殿家関係資料」(歴史資料部門)として国の重要文化財に指定するよう答申された。

これらの資料は、琉球王国の王族における家譜及び家譜編纂にかかる文書・記録類がまとまって伝存する稀有な例であり、琉球王国の家制、職制、文化を知る上で貴重な資料であることが認められ国の重要文化財に指定される。

6 伊江家資料関連年表

- (1) 平成 14 年 伊江家資料、沖縄県文化財に指定
- (2) 平成 20 年 伊江家資料、那覇市へ寄託
- (3) 平成 31 年 「伊江御殿家関係資料」として国の重要文化財指定答申

7 その他

官報告示後に国宝指定、重要文化財指定となる。

以上